

地形・地質の博物館 山陰海岸ジオパーク

The San'in Coast Geo Park: A Museum of Terrain and Geology

中貝 宗治 [1]

Muneharu Nakagai[1]

[1] なし

[1] none

約2500万年前ごろアジア大陸では、東岸で始まった激し地殻変動と火山活動によって分裂が始まり、地構帯によって湖や三角州ができ、さらに拡大して日本海や日本列島が誕生した。山陰海岸は、その数々の激しい火山活動で生じた火山岩や堆積岩が日本海の荒波で削られ、多彩な地質地層と独特な景観を醸しだしている。

大陸であった時代の花崗岩、分裂が始まったころの堆積層にみる象や犀などの足跡化石。1900万年前の噴火活動の真っ赤な火口。列島がほぼ形を整えた数百万年前の流紋岩の流理節理とデイサイトがつくる海岸は絶景である。

160万年前に噴出し玄武岩という岩石名を生み、南を向く磁性が発見された玄武洞など、日本列島誕生時の地球のさまざまなドラマと海蝕地形の変化など地球科学史に接することができる貴重な地形・地質の公園である。

山陰海岸ジオパークのうち東西約75kmの海岸は、1963年に国内法である自然公園法による国立公園の指定、さらに文化財保護法による国指定文化財に玄武洞など8箇所が指定されており保全保護体制も整っている。また、遊覧船による洞窟・洞門、海岸探訪や海水浴など多くの人々が訪れ、親しまれている。

地質遺産を活用した地球科学や環境教育をはじめ地質を基軸としたジオツーリズムを構築し、地域の活性化と持続可能な社会経済発展に貢献するため、2007年7月、公的機関と地域団体など36団体で「山陰海岸ジオパーク推進協議会」を設立、その後2団体の加入があり現在38団体で活動している。

2008年12月に日本ジオパークとして認定を受け、さらに世界ジオパークネットワークの加盟を目指して学術面の強化を図るため、推進協議会に専門部会と府県単位の分会を設け、より一層のジオパーク活動を推進している。